

平成 30 年度

藤里町の人口減少やまちづくりに関する

アンケート調査報告書

平成 31 年 3 月

藤 里 町

報告書作成：藤里版ローカルベンチャー推進協議会

■ 目 次 ■

1.	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の方法	1
(3)	調査期間	1
(4)	配布、回収票数	1
(5)	その他	1
2.	回答者の姿	2
(1)	年齢と性別	2
(2)	結婚の有無	3
(3)	世帯構成	4
3.	藤里町への愛着度について	5
(1)	住み続けたいか	5
(2)	藤里町に住んでほしいか	7
(3)	愛着度	8
4.	まちづくりの現状の評価について	9
(1)	普段のおでかけ環境の満足度	9
(2)	人口減少に伴う人手不足	12
(3)	人手不足解消のために外部からの担い手や移住者受け入れについて	14
5.	情報の発信について	17
(1)	情報の入手方法	17
(2)	「とじこじ」の認知度、普及度	19
6.	まちづくりや人口増加に関する取り組みに対するご意見やご感想	23
	巻末資料 ～調査票～	29

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

町では、平成 27 年度に「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題を解決し、藤里町の特徴を生かした活力あるまちづくりや、暮らしやすく、子育てしやすいまちづくりの実現に取り組んでいる。

計画の一層の推進を実現するために、取り組みの効果や評価を把握することを目的として平成 29 年度に続き、アンケート調査を実施した。

(2) 調査の方法

藤里町に在住する町民 500 人を無作為で抽出し、郵送配布、郵送回収により実施した。

(3) 調査期間

平成 31 年 3 月 2 日配布 ～ 3 月 19 日回収締切

(4) 配布、回収票数

回収票数 219 票（回収率 44%）

(5) その他

回答の構成比は小数第 1 位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

2. 回答者の姿

(1) 年齢と性別

年齢は、平成 29 年度調査と比べると 70 代の回答が増え、60 代前半の回答が減っている。

性別は同じような傾向で、女性がやや多く 54% を占める。

職業も同じような傾向となっており、無職が 33%、会社員が 24% と多く、合わせて全体の約半数を占める。

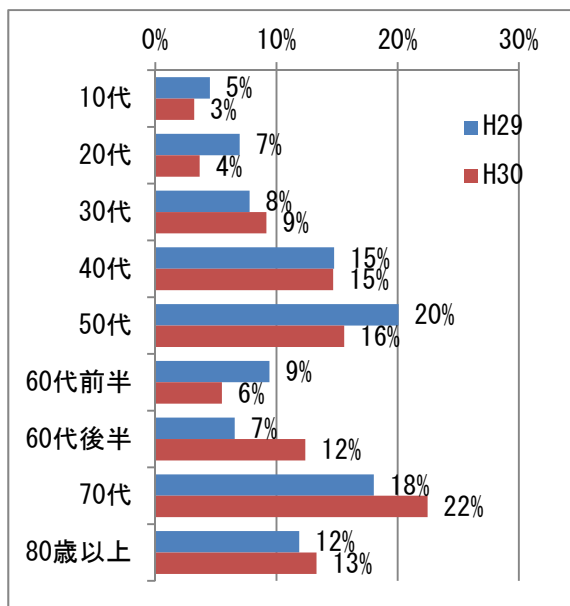


図 年齢

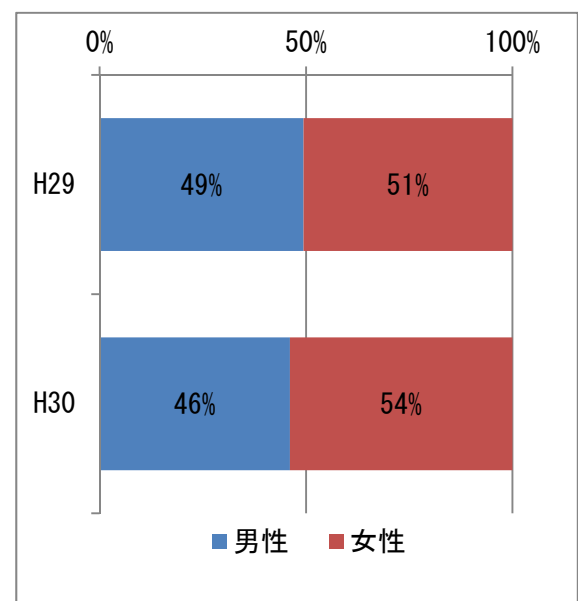


図 性別

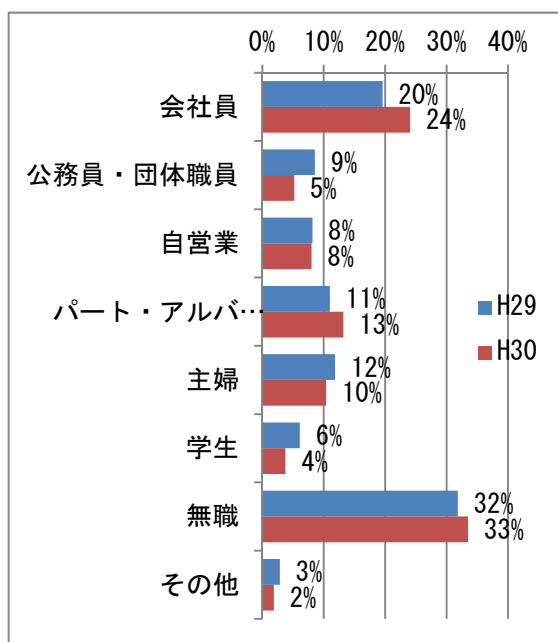


図 職業

(2) 結婚の有無

結婚をしている、もしくは結婚の経験がある割合は、平成 29 年度は 77%、平成 30 年度調査では 78% と大きな変化はない。年代別では、20 代の婚姻率が上昇している。

男女別にみると、男性の方が結婚率は低い状況は変わらず、男性が 70%に対して、女性は 85%である。

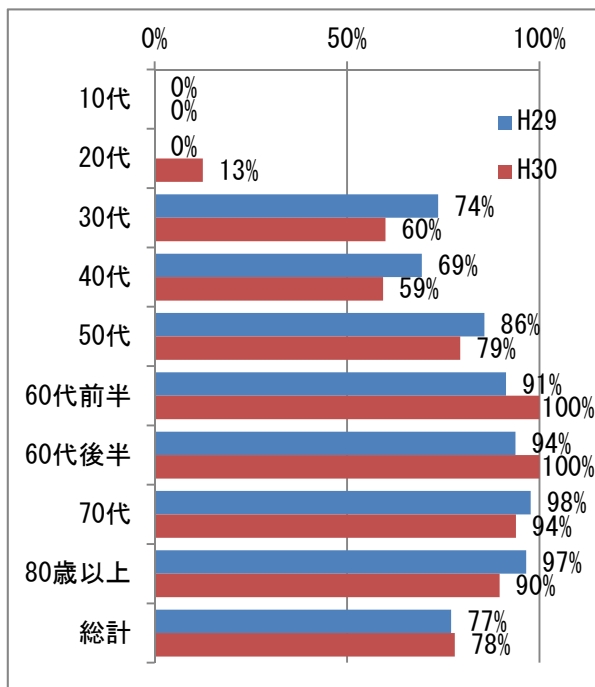


図 婚姻状況

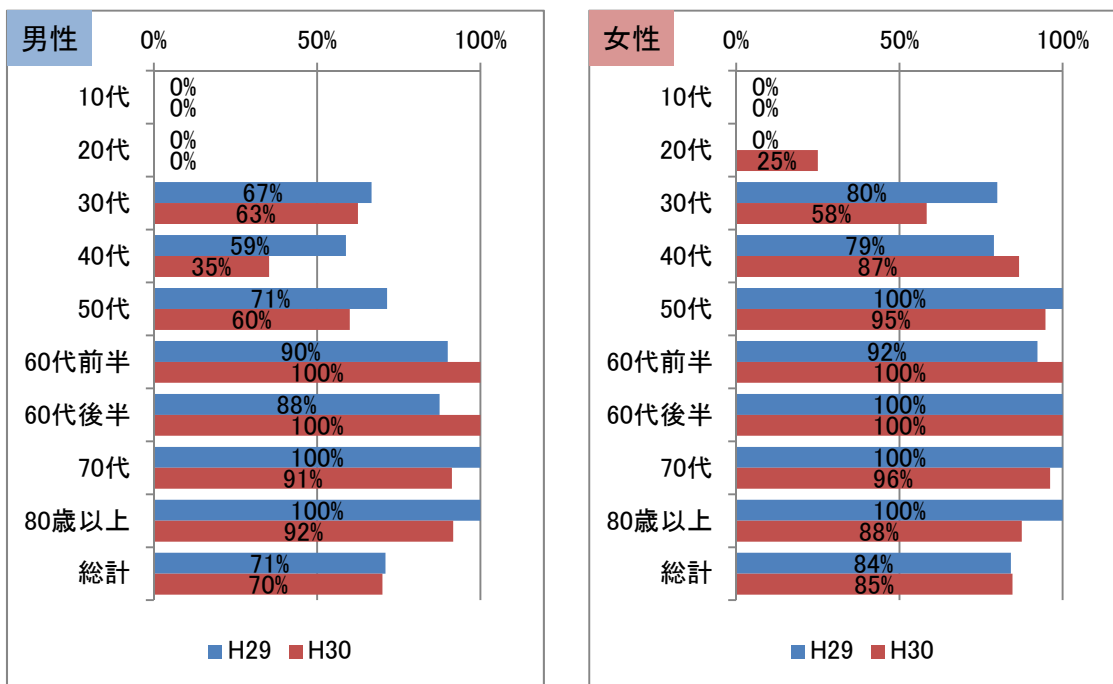
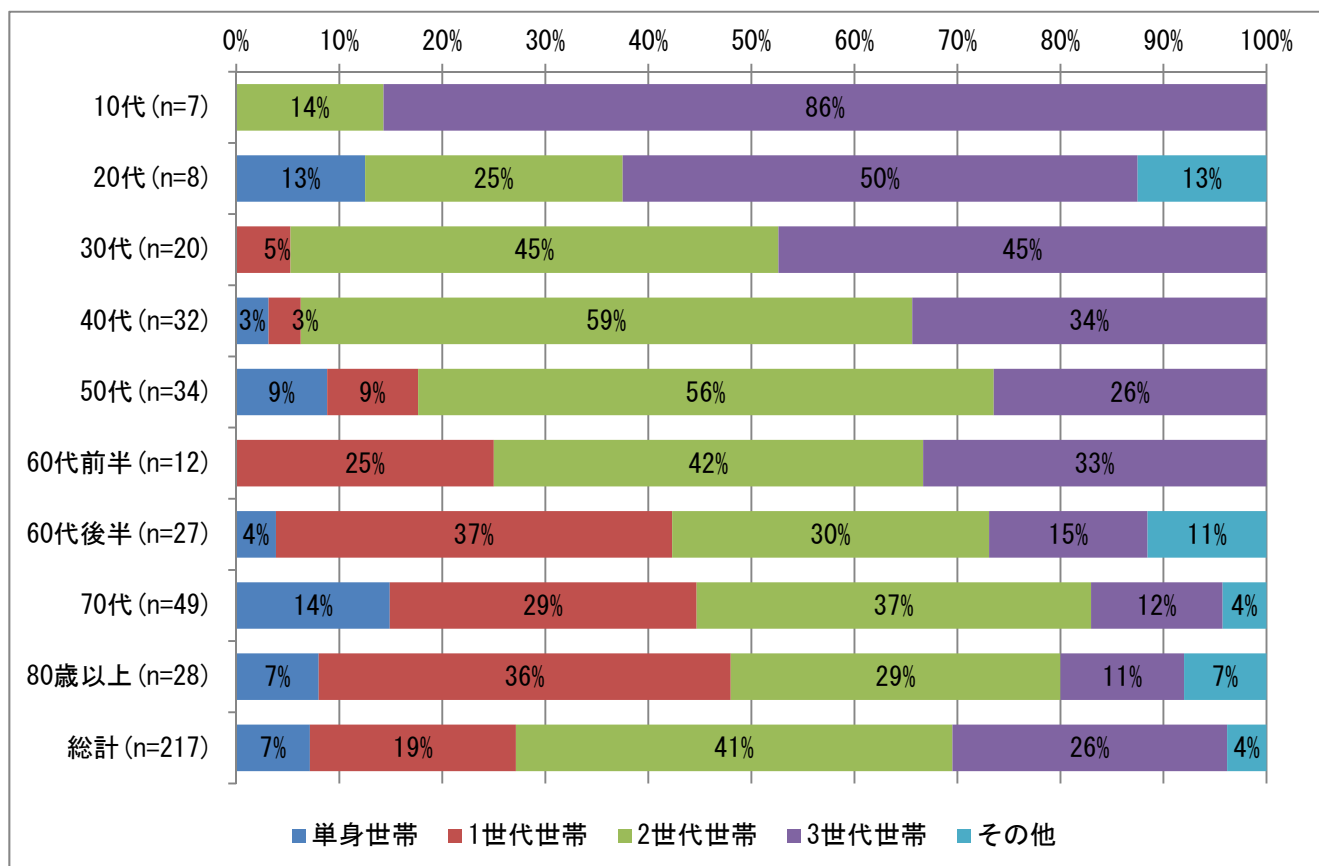


図 男女別の婚姻率

(3) 世帯構成

総計で見ると、2世代世帯が41%を占めて多い。単身世帯は70代が最も多く14%を占める。



注) 回答の構成比は小数第1位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

図 同居している世帯構成

3. 藤里町への愛着度について

(1) 住み続けたいか

「このまま町に住み続けたいと思う」割合は、平成 27 年度は 65%、平成 28 年度は 75%まで増えたが、平成 29 年度は 66%に減少し、平成 30 年度は 69%にとどまった。

平成 30 年度の調査では、「進学や就職などで町外に住んでもいずれは藤里町に戻りたいと思う」という割合が 10 代では 29%と前年度の 55%から大幅に減少し、30 代から 50 代で「このままこの町に住み続けたいと思う」という割合が下がった。

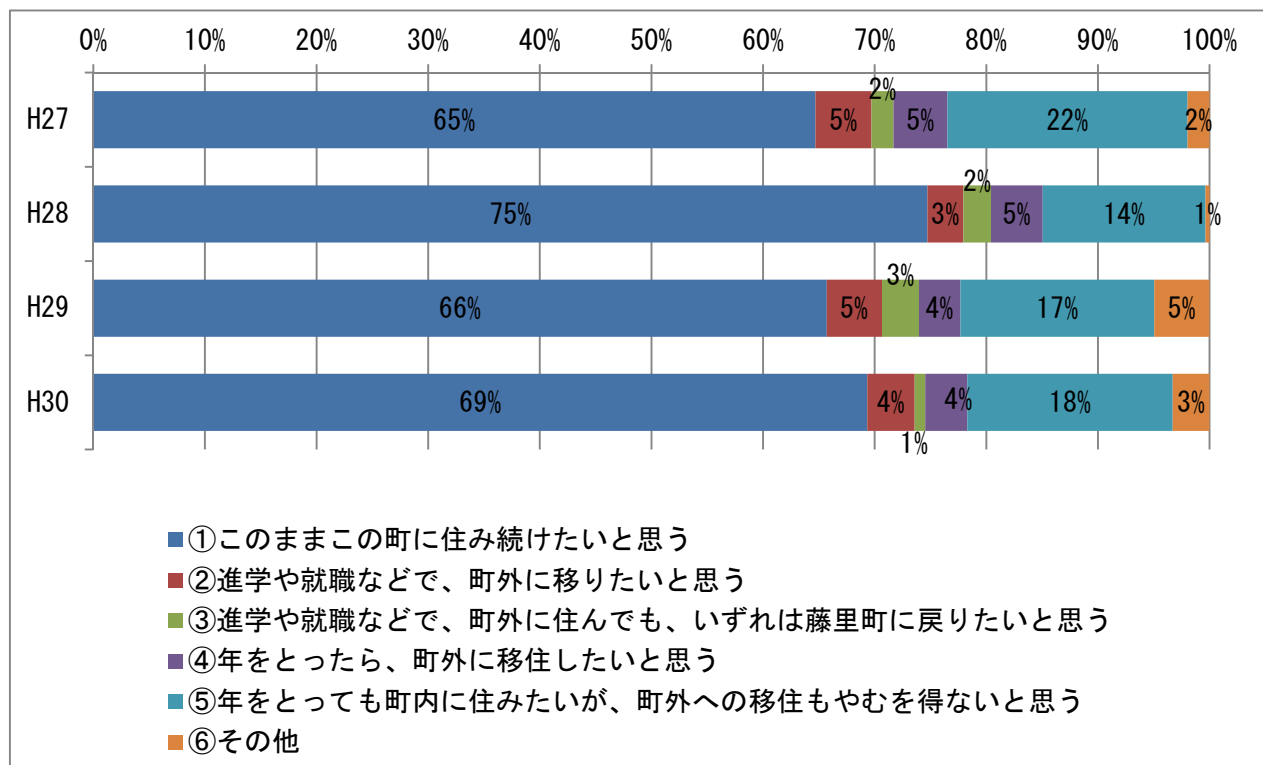


図 藤里町に住み続けたいか

*その他の内容

- ・ 人が嫌で出ていきたい。(30代)
- ・ 住みたいと思っていない。(20代) (30代)
- ・ 藤里町は好きだが、将来のやりたいことのためには住み続けるのは難しい。(20代)
- ・ 住む家があれば考えたい。(40代)
- ・ この先どうなっていくのか分からないので、その時その時で考えていくと思う。(40代)
- ・ 分からない。(60代後半)

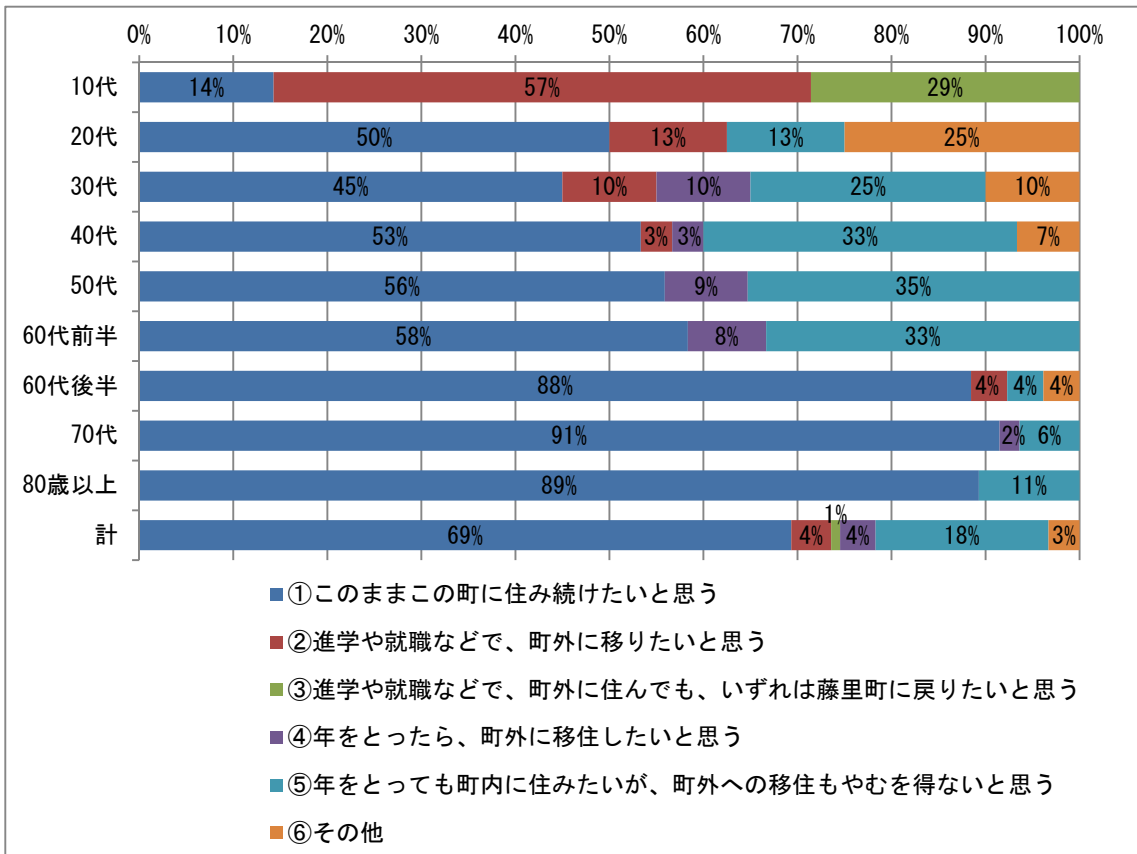


図 このまま住み続けたいか（平成 30 年）

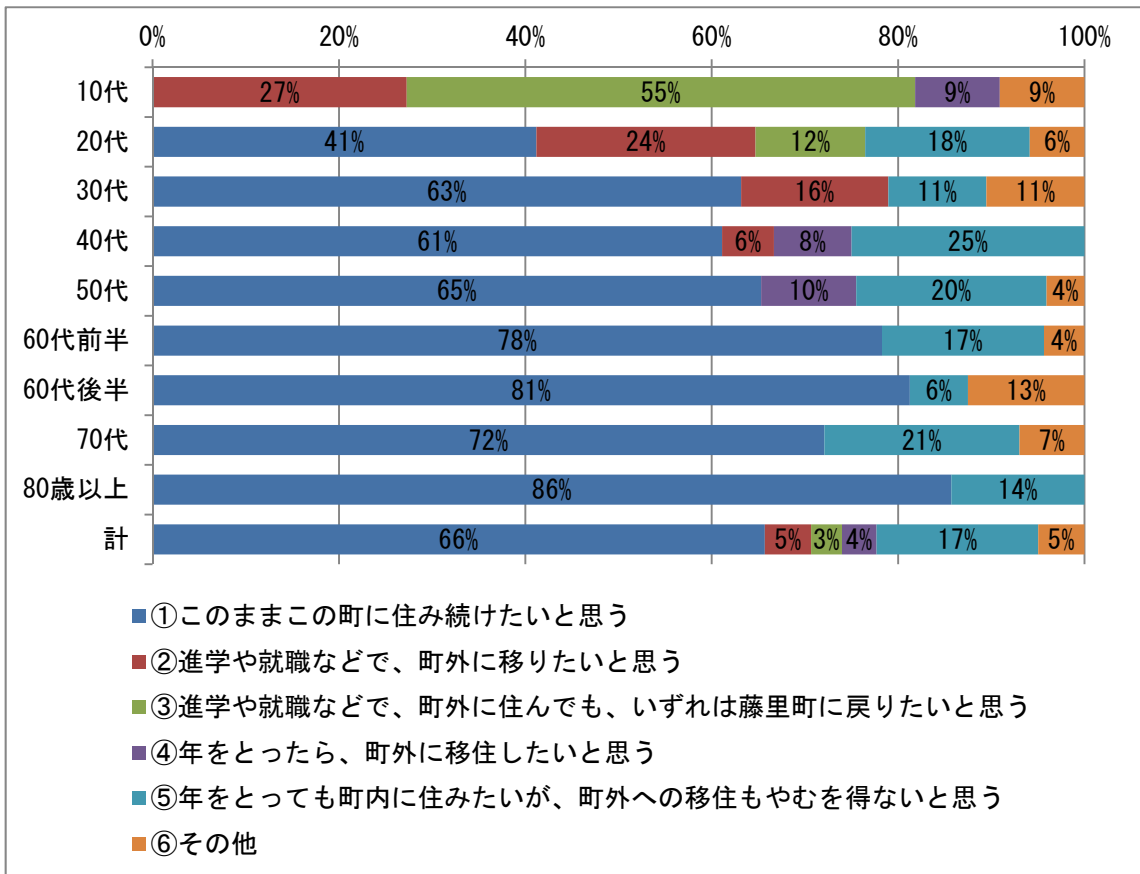


図 このまま住み続けたいか（平成 29 年）

(2) 藤里町に住んでほしいか

将来、あなたの子どもや知り合いなどに、藤里町に住んでほしいと思うかについては、平成 29 年度は「住んでもらいたいと思う」割合が減り、「どちらともいえない」割合が増えている。平成 30 年度も同程度である。

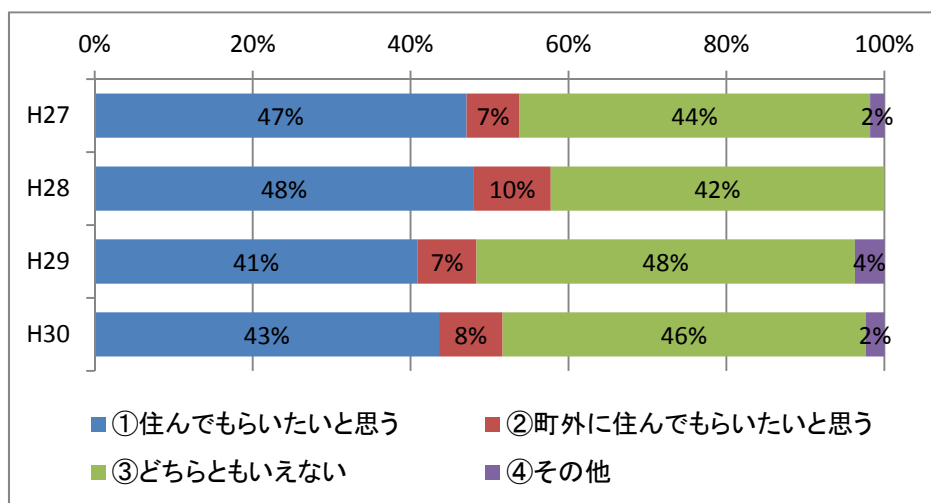


図 藤里町に住んでもらいたいか

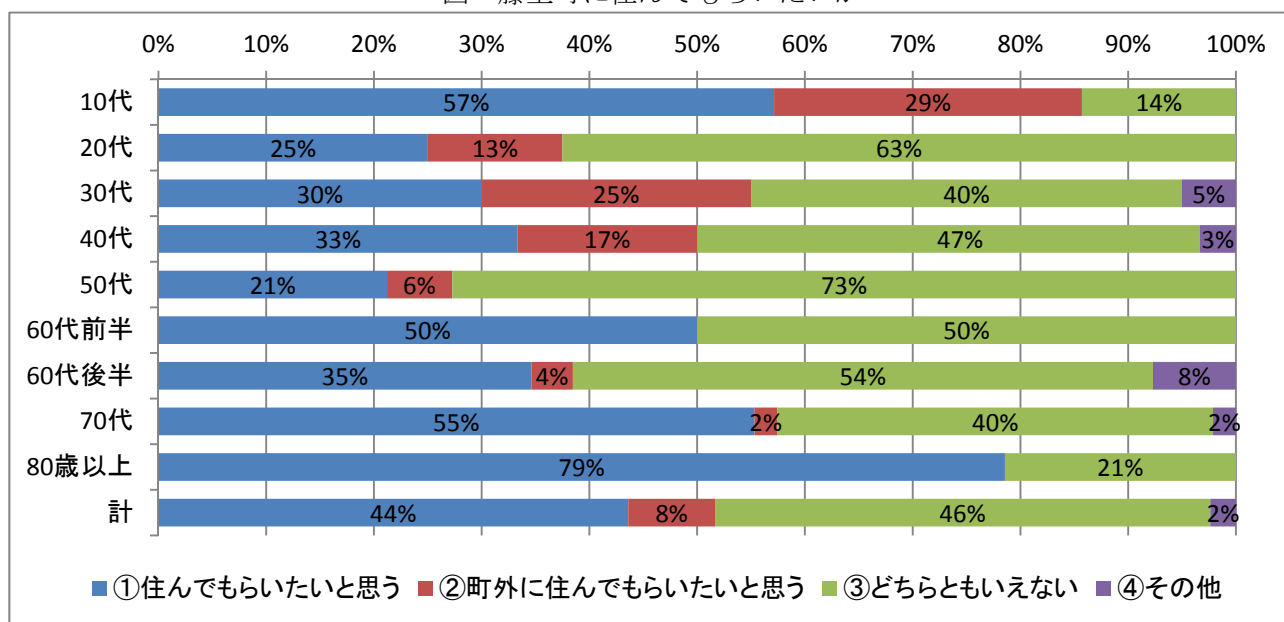


図 藤里町に住んでもらいたいか (年代別)

*その他の内容

- ・ 当人次第。(30代)
- ・ 藤里町として残ることができるのが不安。子どもさんのためにはこの土地は良いと思う。(40代)
- ・ 分からない。(60代後半)
- ・ 現在住んでいないし帰らない。(60代後半)
- ・ 小、中学校が心配。(70代)
- ・ 県外に息子が勤めているので今は何ともいえないです。(70代)
- ・ 現在県外に住んでいる。(80歳以上)

(3) 愛着度

藤里町に愛着を感じるかどうかについては、平成27年度には「強く感じる」が41%だったのに対して、平成28年度から減少し続けている。しかし「まあまあ感じる」を加えると、いずれも80%以上と愛着度は高い。30代、40代、50代の愛着度「強く感じる」が著しく低い。

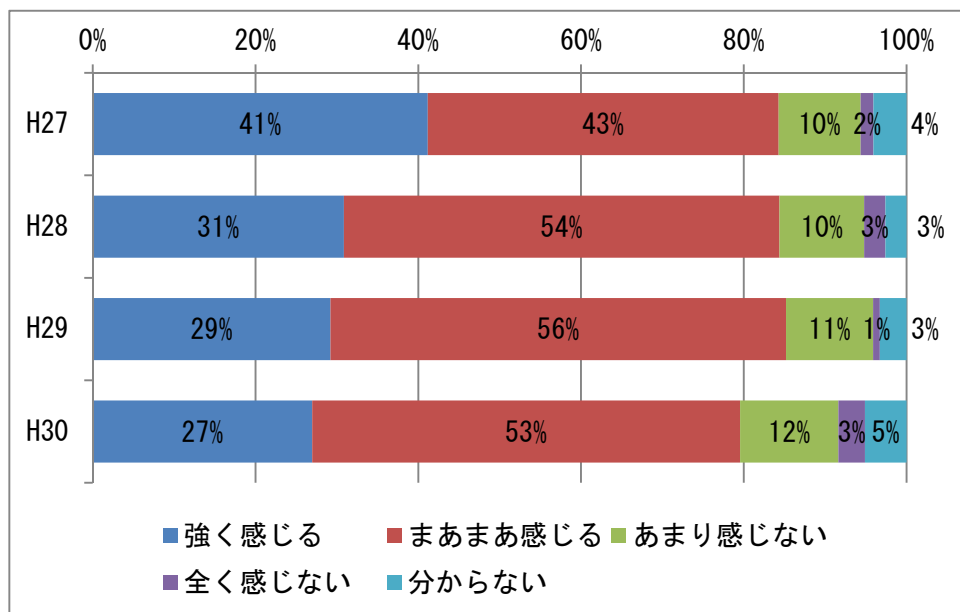


図 愛着度

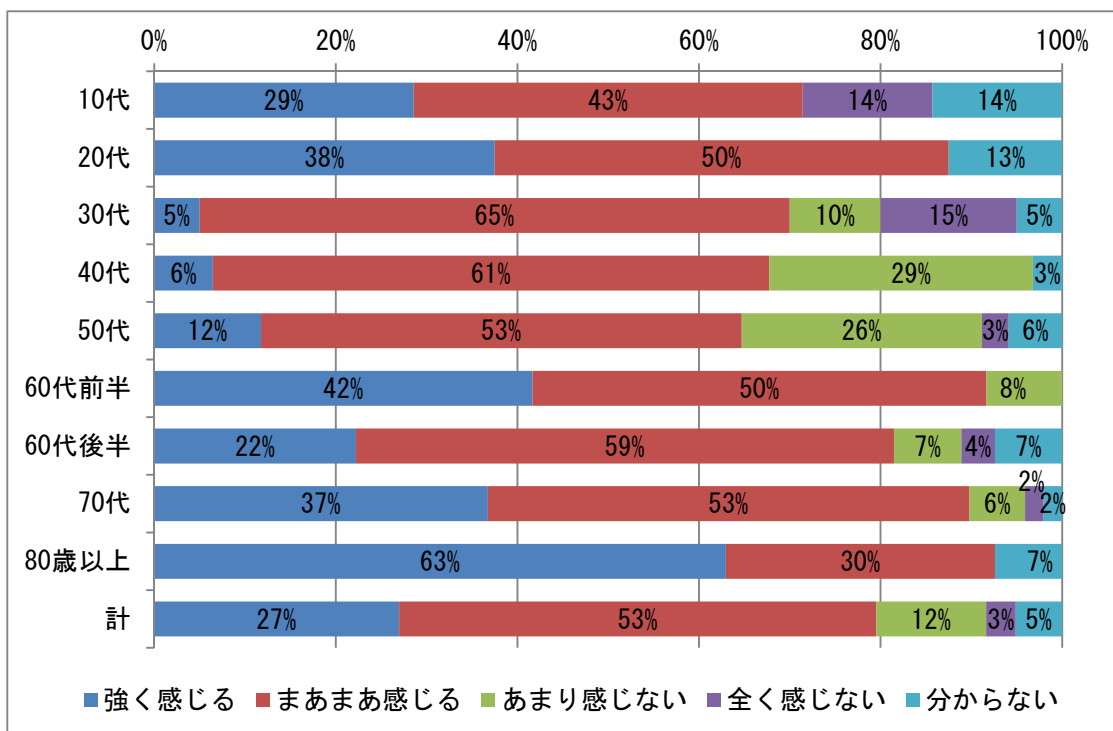


図 愛着度（年代別）

4. まちづくりの現状の評価について

(1) 普段のおでかけ環境の満足度

普段のおでかけ環境に満足しているかについては、平成 27 年度から平成 29 年度まで「満足している」が 26%から 17%に減少していたが、平成 30 年度では 24%に増加している。平成 27 年度から「やや満足している」が 34%から 23%に減り続けていたが、平成 30 年度では 33%に増加している。

「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた数値目標は、平成 27 年度現状値が 60%であるが、平成 31 年度には 80%を達成することを目指している。

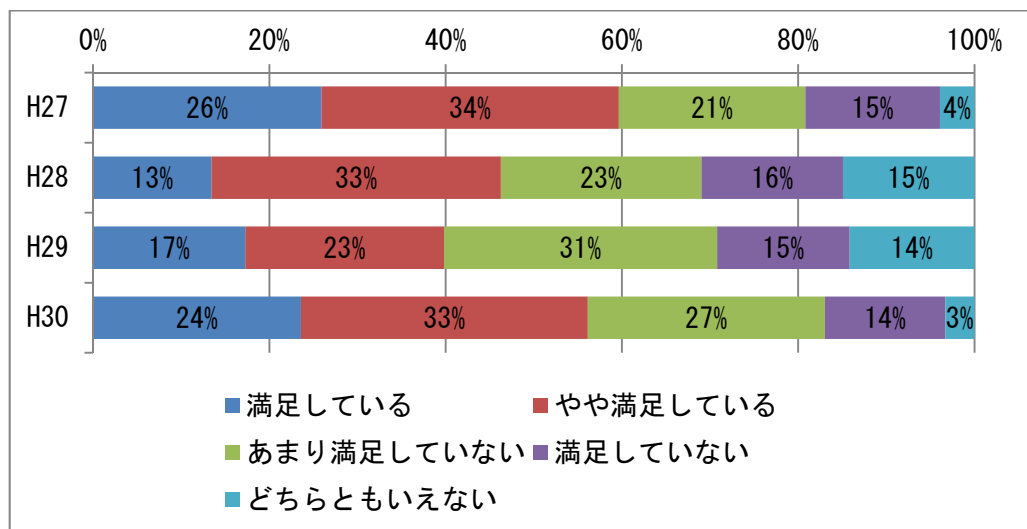


図 おでかけ環境の満足度

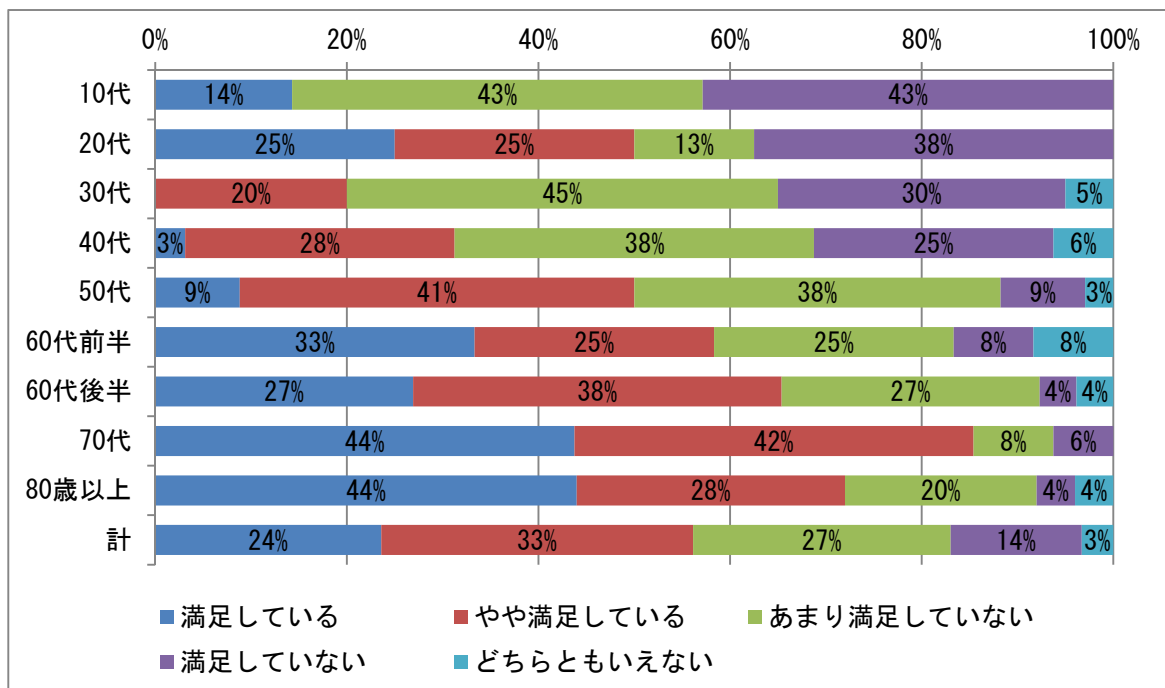


図 おでかけ環境の満足度（年代別）

〔満足している理由〕

20～30代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車があるから。 ・ 道路も整備されている。 ・ 大館市、秋田市に行く距離が同じくらいだから。 ・ 秋田市にも青森、岩手にも1から2時間で行けるので。 ・ 藤里の除雪がありがたい。 ・ 車を運転して、二ツ井や能代市など買い物に行けます。
40～50代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で行きたいところに行けるから ・ 通行止めにならない限りOK。 ・ 自然豊かで環境が良い。 ・ 自家用車で能代市や北秋田市に出かけることができるから。 ・ スーパー、銀行、JA、商店、生活に必要なもの、場所は揃っているから。 ・ 食品が地元で買えて、たまに町外に出かける。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路が整備されていて、車があるから。（車がなく、運転できないと、大変不便）
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の便が良い。（除雪の徹底） ・ 食料品、雑貨、色々揃っているから。 ・ 能代までの直通バスがありとても助かっています。 ・ いとくがあるから。時々郊外にも行ける。 ・ 長年の慣れ。 ・ 空港が近い。

〔満足していない理由〕

10～30代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車がなければどこにもいけないから。 ・ バスの本数が少ない。 ・ 電車がない。 ・ 交通の便が悪い。 ・ お店が少ない。何でも売ってたら、いいのに。 ・ 地理的にどこに行くにも遠い。 ・ 町外でないと用事が済まなかったりする。 ・ 病院がない。 ・ 集落に子供を遊ばせる場所が無い。土日に営業している飲食店が少ない。 ・ 除雪が遅く出勤に影響する時がある。 ・ 冬道の除雪の有無で出かけることを迷うから。
40～50代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活用品不足、食品の価格、大人から子供の遊び場、気軽に集える場などが不足していると思う。 ・ 通院、買い物の身近な手段が足りない。 ・ 商店に元気がない。 ・ 老人を一人残すことになるとうまく空けづらい。 ・ 山に囲まれている分冬場は特に大変。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町外に出るまでの道路が狭く、カーブも多いので危ない。 ・ 袋小路だから。 ・ 2～3kmの距離なのに田としかなく歩くのが面倒になる。 ・ バス停まで遠い。 ・ 一度二ツ井町に出ないと容易にどこにも行けない。直接、北秋田市に行く道路があればいいのと思う。 ・ 県道の除雪が行き届いていない。※二ツ井の方で雪が降っていないと町の奥の方の除雪が遅い。 ・ 路線バスの運行が1時間ごとに4本もあるので1本ぐらい田中方面を通ってほしい。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車がないと生活できない。 ・ 幹線道路の不備。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢になり車の運転が不自由なので外出を控えている。 ・ バスと電車の時間が合わない。 ・ 病院が遠い。 ・ 足腰も弱くなり、玄関前から気軽にバス利用できるようになれば良い。 ・ 土、日、祝日もバスを運転してほしい。 ・ 道路整備が行われているが、速急にお願いしたい。

[その他]

30代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物は、町外でしてしまう事が多いと思う。店を増やしたら？
40～50代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩いたり自転車だったりの時に移動中に楽しみがあればいい。 ・ バイパス（ぐみの木～荷上場）が完成すると、より良くなると思う。もう30年早く造っていたらとも思う。 ・ あきらめている。 ・ 今年10月に行く定額タクシーの実験に期待しています。藤里町の財政を圧迫することになると難しいと思います。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくら道路が整備されていても、外出したいと思える場所が町内にはない。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線バスの不便性があっても、それでも現状に（バス）感謝しております。将来このバスがどうなるのか不安。 ・ 駒わりくんを毎日いつでも利用できるようにしたらいいと思います。駒わりくんの使い方を考えていきたい。 ・ 粕毛下団地不十分。

(2) 人口減少に伴う人手不足

普段の生活の中で、人手不足を感じるかどうかについては、「強く感じる」は、平成 29 年度は 10%だったのに対して、平成 30 年度は 7%まで減り、「あまり感じない」・「全く感じない」が増え、全体では人手不足を感じない傾向が強まっている。

どの分野で感じるかについては、「集落の行事を担ってくれる人」が特に多い。また、「何か困ったときに声をかけたら手伝ってくれる人」や「草刈りなどの地域の共同作業」も 3 割を超えて比較的多い。

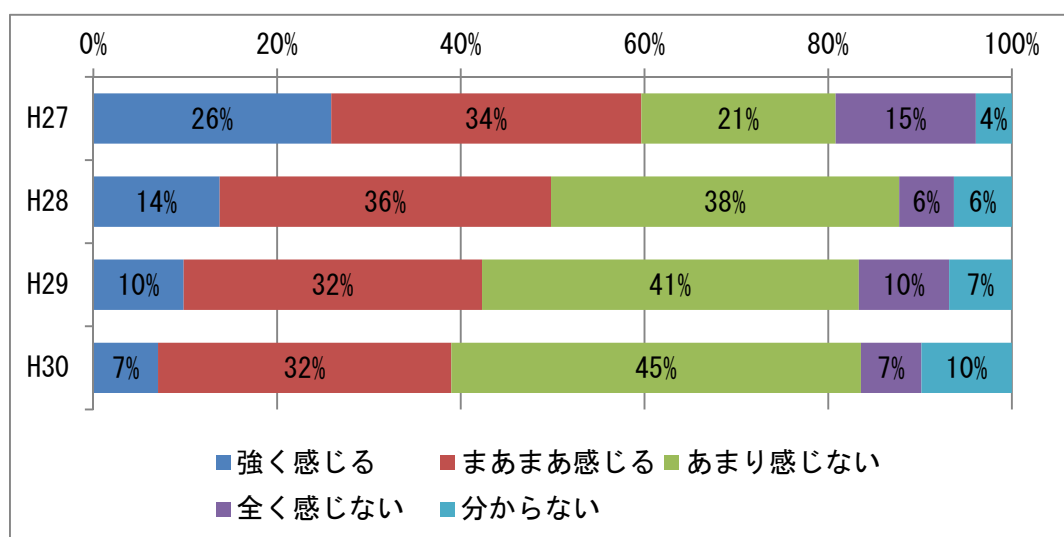


図 人手不足を感じるか

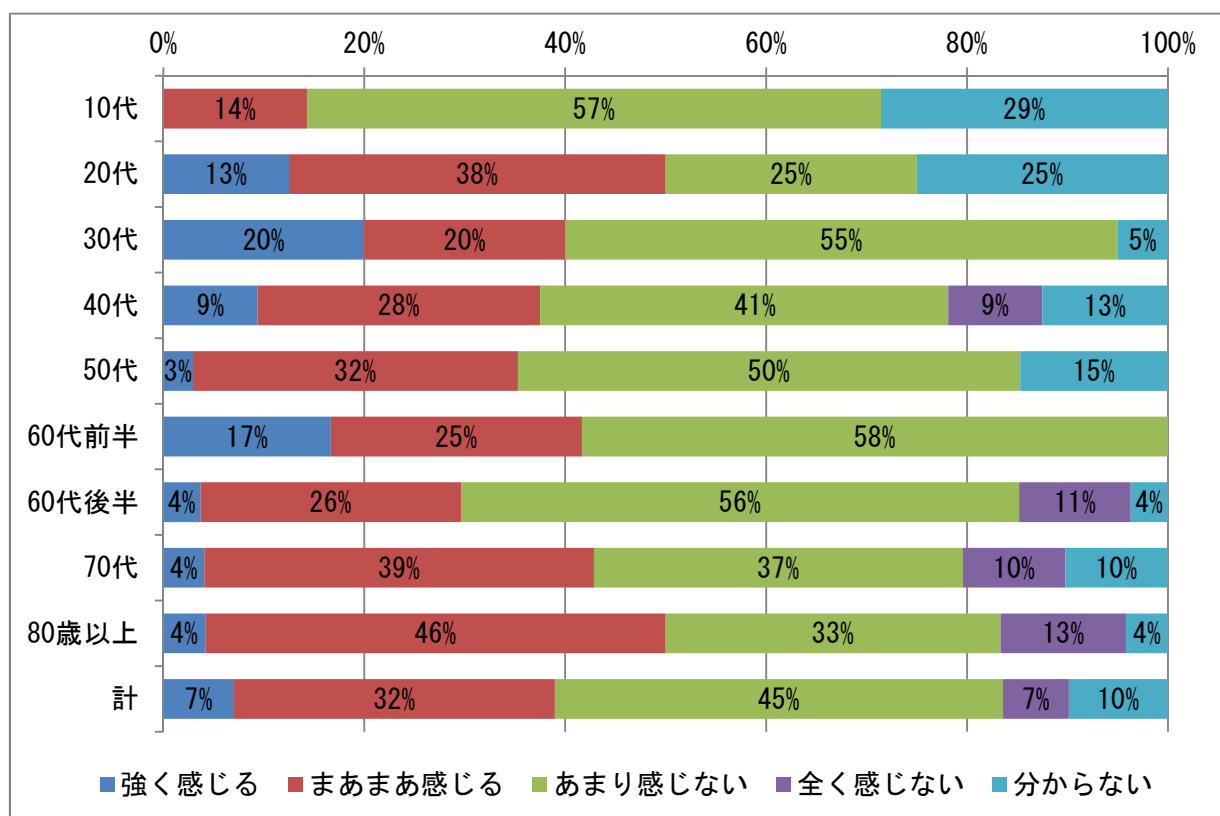


図 人手不足を感じるか (年代別)

[人手不足を感じる分野]

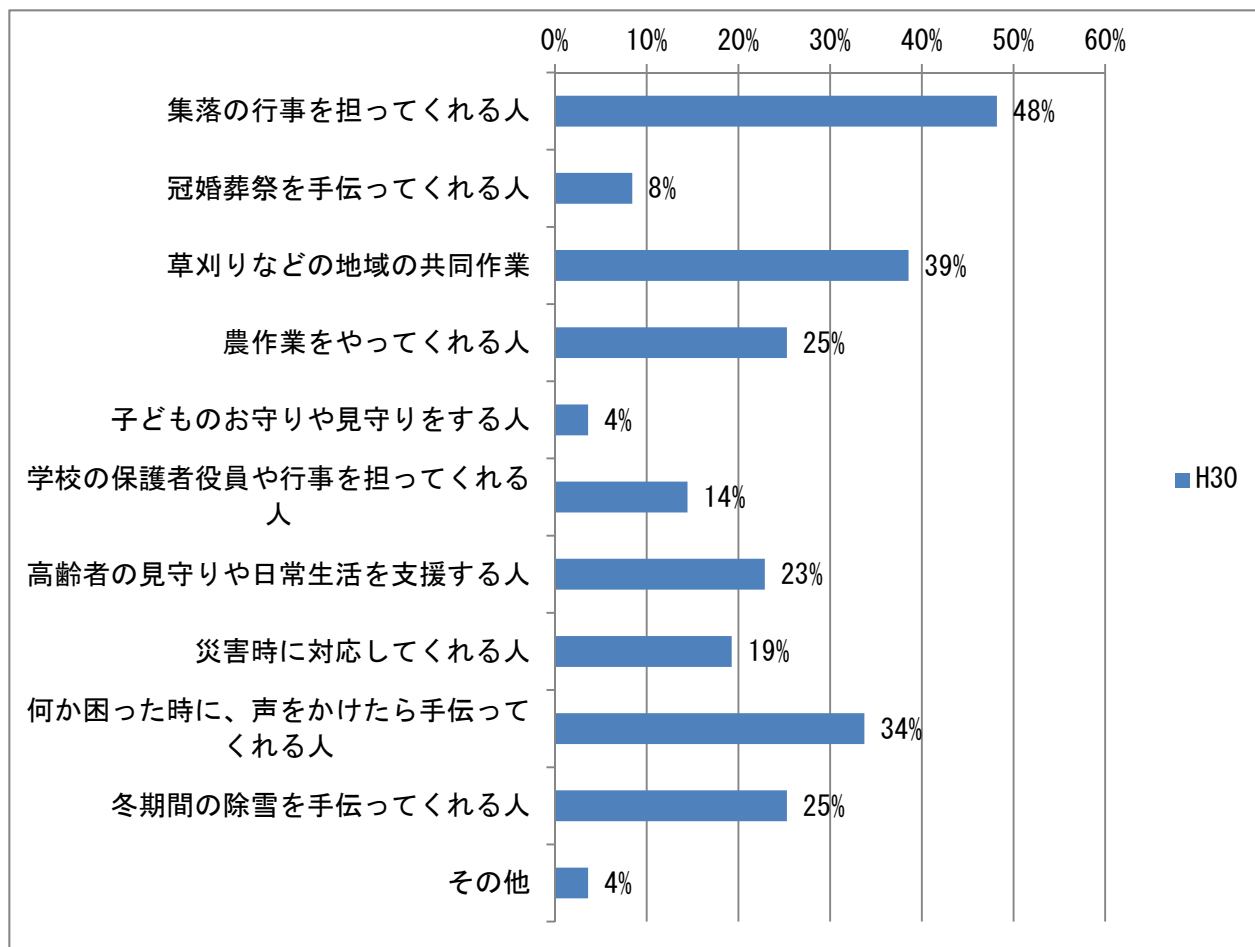


図 人手不足を感じる分野

(その他)

- ・ 行事に参加する方の年齢が高くなった。次世代となる若い方の参加が少ない。(60代)
- ・ 70才も過ぎているため、町内の草取りなど共同作業などは、参加できません。自分の家の畑の草取りなどの仕事もできてないので、町内の作業が始まるようになると、気の毒な思いをしています。(70代)
- ・ 病院の受診などとっさの時に動いてくれる人がいてよい。(40代)
- ・ 除雪は有り難いが路板からの硬いのは老人には容易ではない。(80代)
- ・ 育った町なので。(30代)

(3) 人手不足解消のために外部からの担い手や移住者受け入れについて

人手が不足している分野に、外部からの担い手を受け入れることや、移住者の受け入れについてどう思うかについては、平成28年度から平成30年度までに大きな違いは見られず、「積極的に受け入れたほうがいい」が43%から46%を占めた。「積極的ではないが、やむを得ない」は、平成28年度は52%だったがやや減り、48%となった。

若い年齢層ほど「積極的に受け入れたほうがいい」という割合が高い傾向と前向きな意見がみられる。

また、受け入れるために必要なこととしては、仕事や住居のほか、移住側には覚悟、受け入れ側には受け入れる気持ちなどを挙げる声もあった。

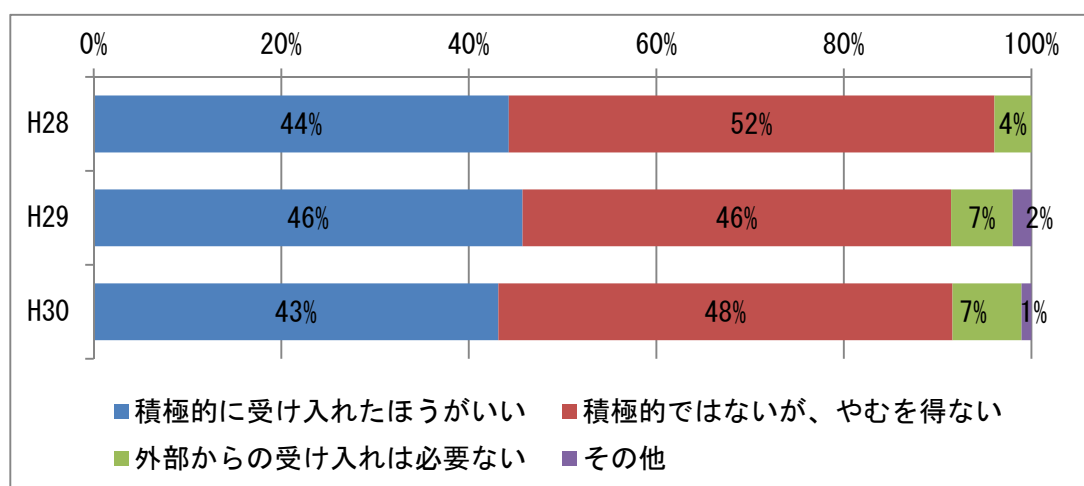


図 外部者の受け入れについて

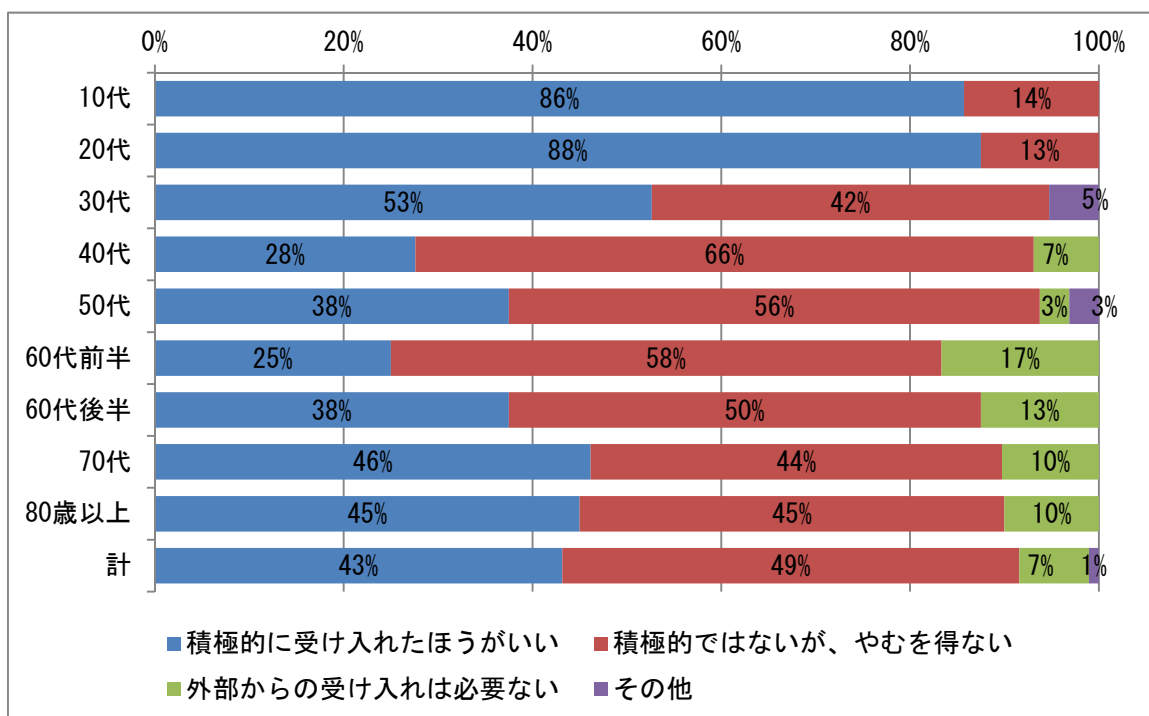


図 外部者の受け入れについて（年代別）

(その他の内容)

- ・ 人手不足の分野ってどこですか？ (50代)
- ・ 分からない。(30代)

[また、外部人材や移住者などを受け入れる際に必要なこと]

10代～30代	<ul style="list-style-type: none">・ 即戦力のある方。・ 受け入れるという気持ちが必要だと思う。“よその”を拒絶しない。・ 変な人はやめてほしい。施設の周りをウロウロしたりするような人。・ 環境の整備。住宅や公共施設、店の改善。・ 施設入館料や流れなど、外部人材を迎えるにあたっての積極的な姿勢。・ 移住手配。・ 自分の町に愛着をもつ→PRする際、他地域の人が興味を持った町の良い点でも、私たちはそれが当たり前だと思って話を前進させられない傾向がある。・ 田舎ならではのゆとりある生活。・ 藤里の町の人の良さを分かってくれる人であること。そのための外部への発信。・ 農山村が好きな人。・ 治安を維持する為にも、少しでも人間的に問題のある人は来ないでほしい。特に高齢者を狙った犯罪が増加しているので、慎重に選考するべきだと思う。・ 「産業の掘り起こし」か「光を失した街作り」(照明を一切使用しない)で観光客を呼ぶ方法とかを考える。・ 人間性を重視する。・ 外部人材や移住者との壁を作らないこと。皆平等。・ 空き家をリフォームして外部人材などが住める場所をつくる。・ 藤里町の魅力を町民が理解することと、積極的になること。自然の豊かさと町民の温かさを、元々藤里に関わったことのない、都会の人に知ってもらう機会をつくること。昔ながらの田園風景等、近年海外から注目されている。
40～50代	<ul style="list-style-type: none">・ 仕事がないため生活できない。・ 何をするのか、何のために受け入れるのか、町民の皆様が末端まで理解できてないと意味がないように思います。・ 身上調査。身元調査。身元保証。・ 最初だけでなく、常時一緒に頑張っていく、歩んでいく、気持ちと行動。孤立感を与えない。情報発信。魅力あると思ってもらえる何かがあること。・ 家。・ 藤里町の良い所、問題点等、外部ならではの意見が欲しい。・ 本気度の見極めと就職の環境を整えること。・ 特になし。・ 地元の人を優先し、それでも人手が不足する場合はやむを得ない。・ 住民にうちとける方。・ 犯罪、在日、テロはヤバイ。集団。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定期間の契約的な移住ではなく、定住したいと思ってくれる、思ってもらえるまちづくり。 ・ 安定感、安心感を提供する。 ・ 若い人が働ける企業を誘い、または、町内で行って行くこと。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家を斡旋、保育制度。 ・ 安定した仕事、給料、住宅。 ・ 移住を希望する方達との話し合い、町民と平等の扱い、特別扱いしないでほしい。 ・ 外部からの応援者、移住者が生活しやすい環境づくりが大切。 ・ まわりの皆で支え合い協力し合うことが必要であるが、何か問題が起きた場合に対応し、解決してくれる方が必要である。 ・ 藤里町の現状を知った上で、自分には何が出来るか、自信の持てる仕事を継続でくる覚悟を持ってもらう。 ・ この町ならではの企画をせよ!! ・ まわりの人達とうまく生活できること。 ・ 外部の意見が町の発展につながると思う。 ・ 条件、たとえば5年以上住んだら住宅を与える等。相談事にすぐ対応すること等。 ・ メリットとデメリットを合わせて受け入れる心構えが必要だと認識すること。 ・ 移住者を受け入れるためには色々の面で住みやすい町にしないといけないことだと思う。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤里町で第1に親子で生活出来る事が条件です。住宅、地域のコミュニケーションを大切にすること。 ・ 各集落を見せて意見交換する。 ・ 移住者を受け入れるには、若い男性や女性で外国人が良いと思う。外国語を覚えて、海外旅行をしたいから。又、移住者の働く所工場や、スーパーなどをもっと作ってほしいと思う。 ・ 人口が沢山増えてほしいので住みやすい町づくりのため。 ・ 価値観の違いや移住者への気づかい（コミュニケーション）がとても下手だと実感しております。 ・ ことばのやりとり。 ・ 黒人はNO! ・ 数値的な目標はあるのか、地域で受け入れる環境づくりが必要ではないか。 ・ 分からない。 ・ 人材に関しては、いろいろ実家のほうでも、農家の手伝いをしていただいて、ありがたいこともあるので続けてもらいたい。が、本人たちはどう思っているのかが分からない。 ・ 身分のはっきりわかる人。 ・ 住民が意識を高め、あたたかく接していく。 ・ 担い手不足のため。

5. 情報の発信について

(1) 情報の入手方法

普段、町のお知らせ・情報はどこから入手しているかについては、「町の広報」と「回覧板」が70%前後と高い。次いで「防災無線」が45%を占めている。

年齢別にみると、10代は「町の広報」20代は「回覧板」の割合が比較的高い。

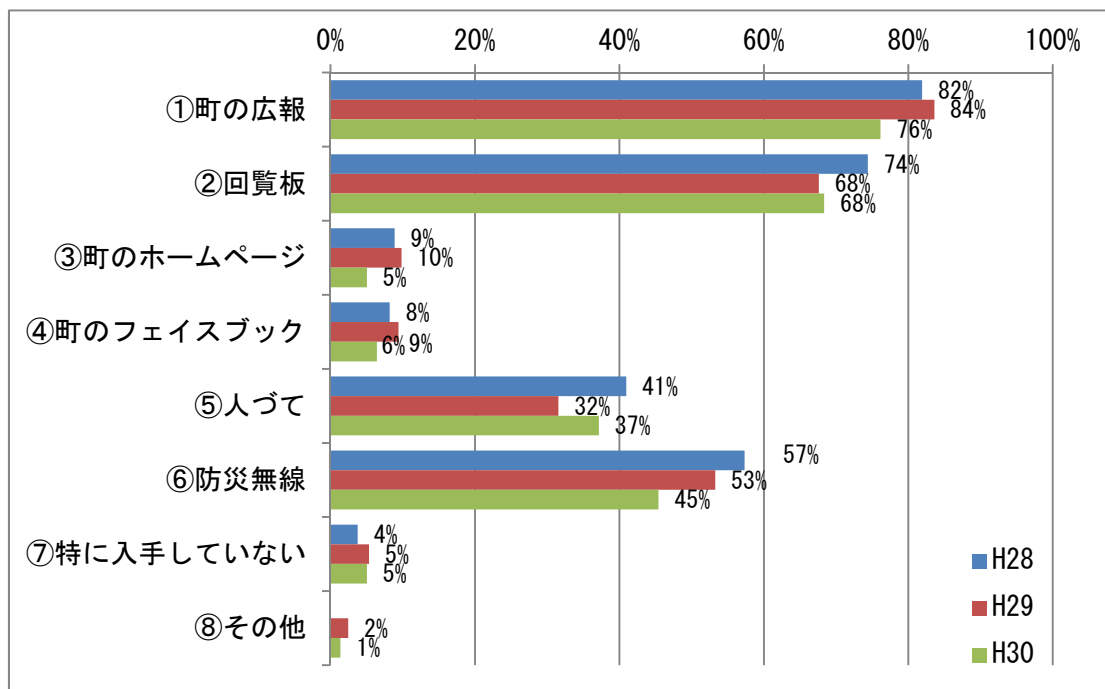


図 情報の入手方法

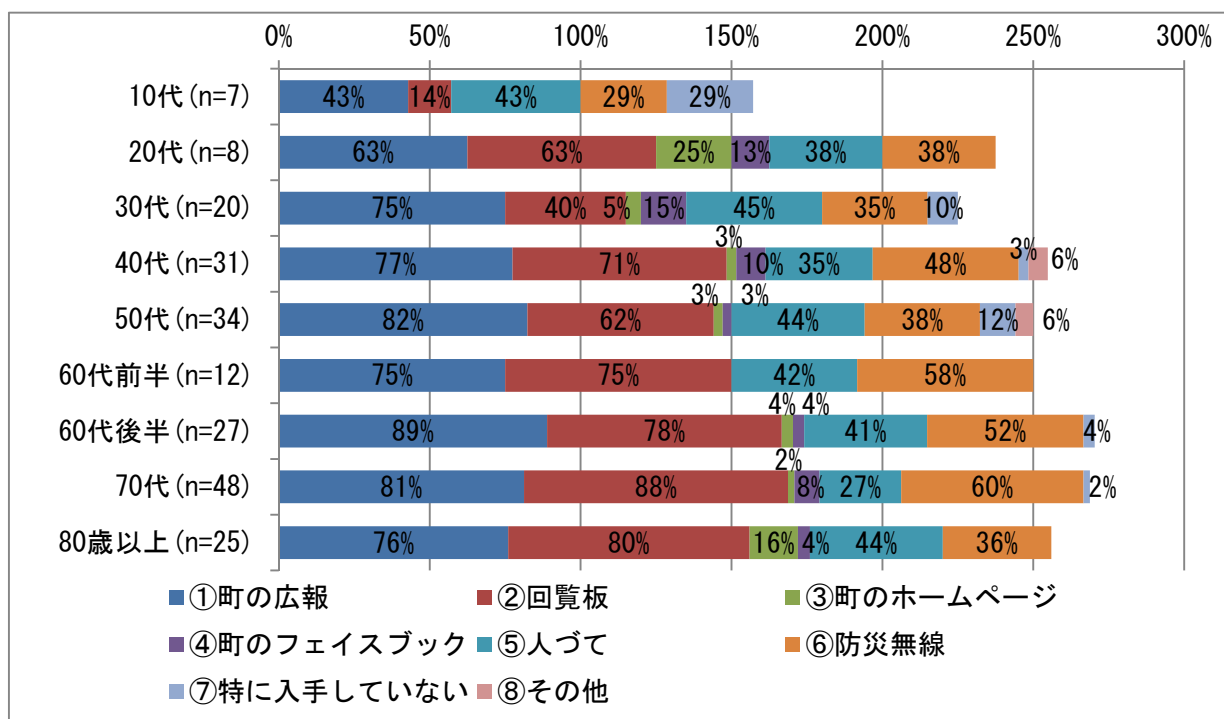


図 情報の入手方法 (年代別)

(その他)

- ・ ポスター、スマホ。(40代)
- ・ 防災無線が聞き取りにくい、ないよりは良い。繰り返し言って欲しい。(40代) (50代)
- ・ 家族。(40代)

(2) 「とじこじ」の認知度、普及度

地域おこし協力隊員が毎月発行している「とじこじ」と1年に1回発行の雑誌「とんじこんじ」を知っているかについては、平成28年度から平成30年度では認知度が高く85%以上が「知っているし、読んだことがある」と回答している。

特に、70代の認知度が高まった。

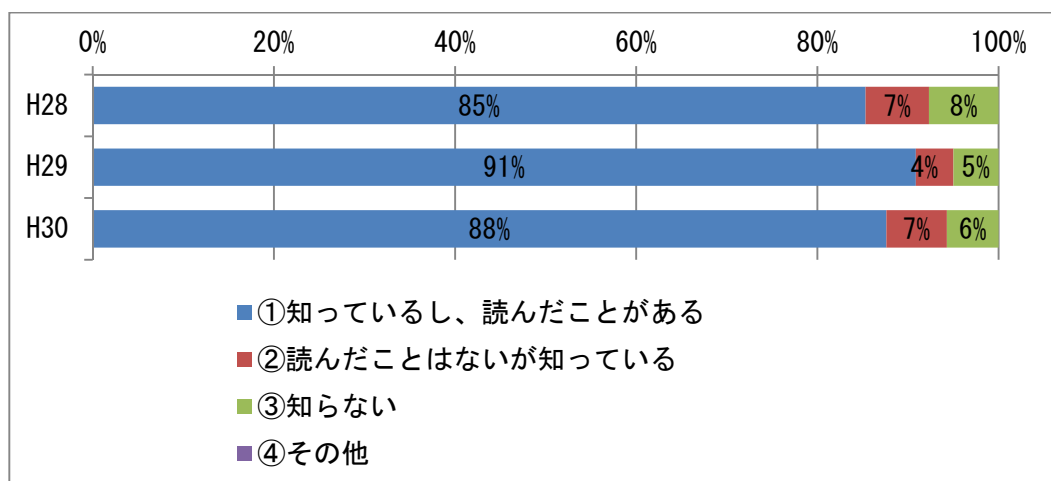


図 「とじこじ」「とんじこんじ」の認知度と普及度

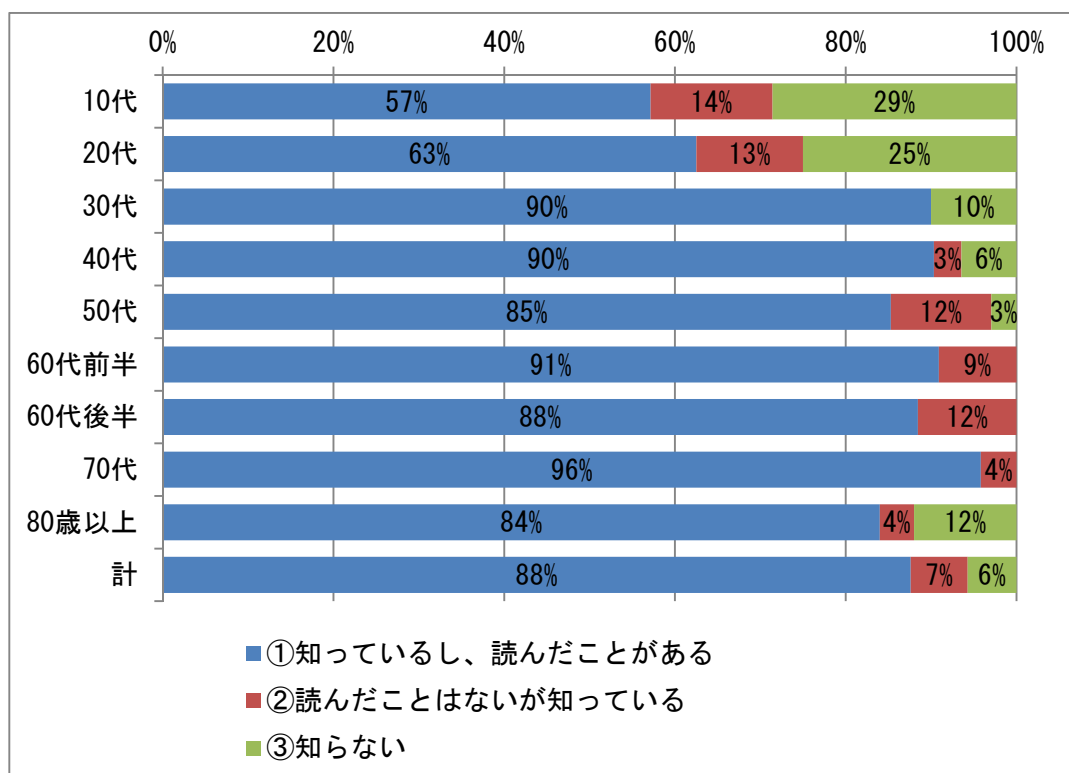


図 「とじこじ」「とんじこんじ」の認知度と普及度（年代別）

(その他の意見)

- ・ それなりに毎回面白いと思うので続けてください。(30代)

[とじこじ、とんじこんじへの意見や感想]

<p>10代～30代</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと色々な場所に置いてほしい。 ・ 藤里の事情が良く知れて良いと思う。 ・ 「藤里町にこんな施設があったのか」や「いつも会ってあいさつする人はこんな仕事をしているんだ」など、自分が知らない町・町民のことがよく分かって楽しい。デザインやマンガも面白くて読んでいて飽きない。 ・ いつも面白く読ませてもらっている。今後も頑張ってもらいたい。 ・ 町の人のかこれまでの暮らしや考え、頑張りを知ることができる。いつもとても楽しみにしています。 ・ 手に取って見たくなるようなデザインなど大変がんばっているなどと思います。 ・ 作っている様子を見てみたい。いつか取り上げられる側になってみたい。 ・ 正直役場カラーが強い。登場している人が役場の人と繋がりがある人だけで、毎回同じ人ばかり。何のための雑誌か分からないです。 ・ もっとたくさんの幅広い人に声をかけてほしい。町中心で作られている感じがする。
<p>40～50代</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知ってはいるけど、、、？です。 ・ 続けて行って欲しい。 ・ 毎回楽しみにしています。 ・ 何の為にあるのか解らない程、毎月内容が一緒。 ・ 藤里町で生まれ育ったのではないので、昔の町、人、自然に関する記事は特に興味深く藤里を知る情報源になっています。また、日中仕事でいないので、今現在の事も取り上げてくれるため新たな発見をした時はうれしいです。これからも頑張って発行してください。 ・ 知人が登場して話している所がおもしろい！ 昔の人達の苦労話もいっぱいあってその時の頑張りがわかる！ ・ 地域や人を再認識できる良い雑誌だと思います。編集も、いいなあ、と思っています。 ・ 役場関係者の人達が良く載ってる様な気がします・・・。 ・ 前回も書きましたが、とても良いと思います。私事ですが、忙しくても見てしまいます。藤里町には、まだまだ素敵な人がいるのではと思います。年齢を重ねた人だけでなく、いろんなことに挑戦している若い人も良いと思います。もしできるなら、藤里町から出てがんばっている方でも面白いのでは。ただ、取材するのが難しいですね。（お金もかかる？） ・ 個人に脚光を当てて、赤裸々にその方の人生を文章に起こしたものは、興味があるし面白いが、人生の先輩しかいない町って気がします。少しもの悲しい気がします。また、各地区の行事などにも脚光を当てたほうが良い。かもや堂に入り浸っている子どもたちが掲載される確率が高いので疑問。 ・ 町外から来てくれた人の目線でいろんな事に取り組んでいてくれて努力してくれている姿が表れていると思います。 ・ 町で暮らしていても知らない事を楽しく知ることができて楽しみにしている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 違った情報が載っていたり、人の名前が違っていたりしているので、今後も発行するのであれば、きちんとしたのを発行してもらいたい。以前、不愉快だったことがあるので。 ・ 外からやってきた方には藤里町はこう見えるんだと気づいたり、自分の知らなかったことの発見もあって面白いです。 ・ 長年藤里町に住んでいても、知らない人や情報等を知る事により、郷土愛がわいてきた。 ・ よくがんばっていると思う。 ・ 町民でも気づいていない事・知らない所などを載せてみる。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人丁寧に取材してわかりやすく書いています。ガチャガチャは良い考えでした。 ・ これからも楽しい記事を待ってます。 ・ すごくいいと思いますが、もっと多方面から攻めてほしい。 ・ 地域おこし協力隊が雑誌等発行しているが、他にどんなことをしているのか？ ・ あたりまえだったことが再確認できる。知っている方達がトークしている内容が面白い！ ・ 名前だけは知っているが読んだ事がない。今度読んでみようと思う。 ・ 雑誌とんじこんじは、同じ人、役場関係の人が多いと感じる。もっと町内の輝きを持った人達を探して紹介してほしい。 ・ 『石橋談義』を楽しみにしておりました。工藤先生の『あぜ道の頃』もステキなエッセイで楽しんでおります。 ・ 町内の色々な事を知るきっかけになり大変良いと思います。 ・ 自分の知らない事もまだあったと思い楽しく読んでます。 ・ 大変読みやすく編集してくれています。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力隊員の努力が感じられて面白いと感じます。 ・ 人それぞれの生き方、人生論なので毎月楽しみに読んでいます。 ・ 取材が上手だと思っております。若い人が登場して良い。町のテーマを持って対談、協力隊員の取材裏話やもう少し深掘り記事等、若者、よそ者、変り者が結果を残しています。 ・ 大変良いと考えています。これからも続けて下さい。 ・ 昔の事、話題等、沢山思い出されてとってもありがたいです。上京している人達にも送ってほしいです。(一部の人ではなく) ・ 私は中学卒業で県外就職でした。60才で定年退職しましたが、帰郷した後、藤里町に住んで大変感謝しております。 ・ これを読むと、藤里町の事が大変よくわかります。毎月非常に楽しみにしております。 ・ 毎月の「とじこじ」楽しく読ませていただいています。本当にご苦労様です。もっと昔本店の(伊徳スーパー)や、村長やった人で藤里にも東大出ている人達がいっぱいいたので、そんなのも調べてみたらどうでしょうか。 ・ 分からない。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 喜んで読んでいます。・ 毎月楽しみにしています。編集者の皆さま御苦労さまです。・ 町の広報的な情報を多く望む。・ 知っている人だと、深く踏み込んで聞けないことも、協力隊はうまく引き出してくれる。・ とてものがんばっていると思う。楽しく読ませてもらっている。・ 全々知らなかった事など書かれていて良く知る事ができて楽しみ。・ 雑誌とんじこんじは1個目は全戸に配布になったのですが、今はかもや堂に行かないともらえません。全戸に配布は出来ないものかな。 |
|--|---|

6. まちづくりや人口増加に関する取り組みに対するご意見やご感想

10～30代	<ul style="list-style-type: none">・ かもや堂には若い人たちがたくさん出入りしていてイベントも行われているので結構町が活気づいていると思う。私はほとんど藤里町ではなく大館市にいますが、開発センターや図書館など、みんなでゆっくりいられる憩いの場は大館市には少ないので、それらの公共施設がここにあるのはいいと思う。・ 魅力ある町になれば自然に人は来ると思う。一人一人がやれる事をやればいいと思う。・ 他市町村に比べてHPなどおしゃれでもっと見てみようと思いました！ これからも頑張って下さい！・ 子ども対象のイベント、親対象のイベントを別々に実施するのではなく、タイアップしてできないものか。様々なイベントを開催していて楽しそう、行ってみたいと思うが、なかなか足を運べる日程ではないのが残念。・ 私の大学の教授が藤里町のまちづくりについて授業で教えてくれたし、実際に雑誌等を通じて良さを発信していると今回知った。自分の出身の町なのに知らないことがたくさんあった。これからも続けてほしいと思った。・ 藤里の何が良いかと聞かれたら、おそらく大半は自然の豊かさ、良い意味での静かさ等ではないかと思う。若い世代といっても、都会が好きなのも居れば田舎が好きなのも居るので、「有名になる」という事は一概に良いとは言えないのかも。・ イベントなど参加し、交流したいと思っているが、仕事上参加できないので、前もって日程などを知りたいです。・ なーんにもない町。それなりに楽しいこともありますが、若い人が定着するには何もなさすぎる。・ 子供の病院…。町外に出ないとならない、不便。・ 具体的に何をしているのかがよく分からない。活動している人達だけが盛り上がっているだけに見える。・ 職に就ける様にするしかないと思う。・ 仕事があるのかどうか、そこが大きいです。・ 子どもに対して福祉など充実してますが、その親（←若い夫婦）に対する検診などの対応が全然不十分だと思います。他の市などは、無料のクーポン（健診など）がいろいろな項目であったりして、とても充実しているなど、うらやましく感じます。こういったことから、町外に出ていってしまうのは仕方ないと思います。・ 基本今何をやってるかすら分からない。もっと告知した方がいい。・ コンビニエンスストアが1つあればいいと思う。（24時間営業ではない）・ 清水岱公園野球場を、何かの催し物会場として使えないだろうか。（歌手、声優さんのライブ等）・ ストリートバスケのできる場所をつくってほしい。
--------	--

40～50代

- ・ ありきたりだが収入がなければ生活できない。企業誘致のみならず藤里町版ハローワーク。通勤可能な案件の情報。
- ・ 若い人が残れるような収入のある職場が無ければ、藤里には若い人は定着しないと思う。
- ・ 年齢的になかなか仕事がない。
- ・ 高校卒業しても仕事がないため、みんな町外へ出てしまう。隣町でもいいので若い人たちの仕事場があればいいと思う。
- ・ 仕事じゃないですが、仕事が町にないため町外に出るしかないでしょう。取り組み意見私1人が言ってもどうせ何も変わらない。少なからずこんな思いをしている方はいると思います。
- ・ 先例が無い事もどんどんやって欲しい。
- ・ 若い世代が集える場所・行事の確保が必要だと思います。
- ・ 若者が働ける企業の誘致。誘致がむずかしければ町内で起業し、少しでも作ってほしい。
- ・ 職場の増加が必要だと思う。
- ・ 正直言って、よく分かりません。子供が減り高齢化社会（町）になっているのはどこでもあることですが、県内問わず県外の同じような町、村ではどのように取り組んでいるのかたくさん情報を得ることから始め、それを町民に情報発信し、意見を求めてみたらどうでしょうか。ヒントになることがあると思います。（よくテレビとかで古民家を利用したカフェとか催し物があり、人が集まりますが、期間限定(冬を除く)でもいいので何かやってみては…藤里町を知ってもらいきっかけになり人が集まる？
- ・ 町内は面白いと思うものが少ないと思う！ 少し遠くても時間を過ごす施設や娯楽があればいい。町には安定した職業があまりない！ 県外に出て社会に対するいろんな事を学ぶのは自分の為になるし、再認識するのにいい事だと思う。
- ・ 働く場がなくては、外に出ていくしかない。子どもには、外に出て色々な経験をして欲しい気持ちもある。いずれ戻ってきたいと思うような魅力のある町づくりをして欲しい。
- ・ 仕事や経済的なメリットが現実的には必要なのだと思います。
- ・ 人と人がつながる場面や機会を意図的に設定することも大切なのは。（子どもたち）と（地域の人）も同様。「かもや堂」作りに関わった若い人達よく頑張っていたと思いました。あのような人たちの輪を広げていけるように応援する体制があると良いのでは。
- ・ まちづくりの取り組みは、がんばっていると思います。白神山地が世界遺産だとしても、秋田県の人でさえ、知らない人が多い。関東に行ったら、もっと知らない人が多い。ふと思うのは、もっと違った何かがあったら。でも、町の人には良い人が、素敵な人が、いっぱいいます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤里町は子育てしやすい町だと思っています。イベントなど町外の人からうらやましがられる事もあります。ただ働く場所が少ない為、簡単ではないとは思いますが大きな企業が来てほしいです。 ・ 自転車の企画も行ってみました。実行委員の方々の頑張りが見えすぎて迷惑かけるので、申し訳なかったのあと行きません。人生を100歳とするならばちょうど折り返した年齢に差し掛かり、人生をどう生きていくのかを考え始めたところでした。「かもや堂のパン作り行ってみたいなあ、ヨガ行ってみたいなあ。でも、子育て世代って書いてあるし…」。お婆さんは対象外？ 町内会費と街灯料がとられるのが、なぜ住民が払っているのか分からないので地区の役員の方に質問したら村八分？ 祭りをやらない人も村八分？ 若い人たちに来てもらいたいなら考えるべき。若い時に子育て世代の行事がないなど書いたことがあります。今はいいですね。これからもがんばって下さい！ ・ 若い世代の定着に関しては、とっても難しい課題でなかなかハッキリしたコンセプトが見えてないのではないかと感じます。もっと積極的な働きかけが必要なのでは…。 ・ 雇用拡大できる取り組みが必要。企業の誘致や働き方改革を検討するべきと思います。 ・ 芸術村のような工房の誘致までは…医療施設の充実。 ・ 今後改善していくのであれば、いろんな事に対して、「例年通りで。」というのはやめて欲しいと思います。学校のPTA活動や方針などでよく聞かれます。変わるものも変わりませんし、何の改善にもなりません。もっといろんな考えを出し、その中から良いものを選ぶなど、町全体で変えていかなければ何も変化ないと思います。 ・ 地域おこしに対する心の温度差は大きいと感じます。積極的に活動しなくても町を大切に思っている人もいます。町の人みなさんと一緒に試行錯誤しながら、暮らしも心も豊かにしていけるよう、私も日々を大切に暮らしたいと思っています。 ・ 子育て支援、高齢者の福祉支援、就労等の充実。 ・ 自宅から通える所に雇用があればOK。水道の水が飲める安心な町でいいし。 ・ 教育の充実。 ・ 何事も変えたくない、今のままで良いと思っている人が多い。これから町を変えるんだ、変わるんだとアピールする事が重要だと思います。 ・ 「とじこじ」や「とんじこんじ」を通して、町の間や事柄等、今までよく分からなかったものが分かるようになりました。これも町の取り組みとして大変良いと思います。また、そう思っている人もたくさんいると思うので、こういう地道な活動をぜひ継続して欲しいと思います。 ・ よく分からない。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 娯楽施設や工場誘致。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内に仕事が少ない事、あっても給料が安い事、若い嫁（女性）がいない事、まだまだ沢山あるけど、町の取り組み、成果が見えない。 ・ 雇用の確保。 ・ まちづくりのアイデアを募集するのはどうでしょうか？ 子どもの発想は、大人よりも別の考え方がいっぱいあると思います。 ・ 産業の誘致。水資源の豊富さを基本にして養殖産業の誘致を考えるのも一考かな？ 海洋魚とか海洋貝の養殖を真水で出来るはずだから。子どもは基本学力はあると思うが発想力が乏しいのではないかと思う。「そんなのできるわけないじゃないか」じゃなく奇想天外なことを町民全体で考えるべきかな。 ・ 藤里町の人口減少問題。活力ある暮らしやすい子育てしやすい町づくりの実現に向け、取り組んで努力しておられる事は大変ご苦労様ですが、親戚付き合い、近所付き合いも遠退いている現在では、地域おこしも不安な事ばかりですが、移住者の受け入れ、外部からの担い手受け入れはやむを得ないと思います。 ・ 地域おこし協力隊の皆様の活動や若い世代の積極的な活動に期待しております。 ・ どの町でもやってない思いきった事をやる時だと思います。やはり子どもを安心して、のびのびと育てていく環境を作ってほしいと思います。特に経済面の支援等。 ・ 藤里町は位置的に外から見れば比較的災害も少なく自然豊かで温泉もあり町外の人にその魅力を知って頂き、今一番手っ取り早い介護施設を温泉を利用し、大々的に始める事により、町外からの入居者も増えると同時に雇用人数も増え食の方も藤里で作った物を消費する。老人も動けるうちは動き、老若男女、元気に頑張る事により、町が少しずつ豊かさを増して来るのでは…。 ・ 仕事不足のため生活できない事。 ・ 町内で働く職場がないとだんだん離れてしまう。（若い人ほど） ・ まず若い世代の方々にも聞いて下さい。町の将来に対して議員さんや町の方々の十分な考えのビジョンが見えないし聞かれない。 ・ 子どもの教育を充実させる事が大事だと思う。いろいろな能力を引き出し、応援する町になってほしい。（子どもに限らず） ・ 藤里町にとっては、重大な課題です。力を入れて取り組んで行くべきだと思います。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校卒業後藤里町に就職したい人はいると思いますが、職業（自分に合った）に限りがあるので、県外就職する人が多いと思います。若い人々が生活できる様に応援していきたいと思います。 ・ 高齢者になり自分で思う様に行動出来なくなって来たので、若い人たちに期待するのみです。 ・ 藤里町には若者達の仕事場ない。町内で働くとしたら限られた職場しかないため定着はむずかしいと思う。 ・ 若い人が帰って来るような職場がほしい。空き家が多くなっている。

- ・ 増々の藤里町発展される様、お願いします。※山菜採り等個人の山林等に入らない様をお願いします。しっかりと許可証とってから入山して!! 藤里の名産として加工されているのが個人の山に入っているのです。
- ・ 今、役場の〇〇課の若い人達は本当に素晴らしいと感じております。各自がテーマを持って進んで行って下さい。他の課職員も負けずと頑張れますように見本となれ。一般の若者も定期的に集まって論議して欲しいです。◎協力隊の〇〇さんのような映像に秀でた方を町に残すことが出来たらと願います。
- ・ 気がついた時等（自分）ボランティアでそばの草刈等、ゴミ集めとかやってるけど、中々他の人は見て見ないふりしてるような感じ。子ども達は積極的にあいさつしてくれる。とてもいい事です。
- ・ 若い人達が働く工場がほとんどないので、生活できる給料をもらえる工場を作ってほしいです。また保育園に預ける料金を現在の半分くらい安くしたほうがよい。
- ・ 地元で働ける仕事場がほしい。たとえば、誘致企業が必要だと思います。若い人の職場があればよい。
- ・ もっと色々会社を土地がいっぱいあるのだから建ててくれれば良いと思います。
- ・ 何か事業を起こし気持ちを持って頑張ってもらいたいと思います。
- ・ 今、藤里町に多くの空き家がありますが、移住者や若者の働き場がないため町外へ出ていくのではないかと思います。
- ・ 山、川、野、休耕地を利用した物造り。若者の考えで進められる事が出来たら良いと思う。
- ・ 高齢者にお金をかける事は良いとは思いますが、若い世代にもっとお金をかけてもいいと思う。例えば出産祝金や二人目三人目の出産についても。
- ・ ホテルゆとりあについて カラオケに行って、食べものを注文しても、前日の予約が必要と言われてがっかり。もう少しなんとかなりませんか。
- ・ 老人ホームの藤里町の状況がよくわかりませんが、将来自分も入ることになるので、その時にすぐに入れるものなののでしょうか？ 老人ホームが多くあれば他の町市から受け入れれば若い人の雇用も出るとは思います、いかがなものなのでしょうか。
- ・ 老人ホームを作ったらどうでしょう。
- ・ さらなる小・中学生に「ふるさと教育」を充実させてほしい。
- ・ ①町には若い人が定着する職場がない。（町内で働くとしたらかぎられた職場しかないため定着はむずかしいと思う）②畜産や林業から活路を見つけ育てなければならぬ。③観光では売り出す場がない。
- ・ 若い親達に子ども達に町に居るように教えて頂きたいものです。
- ・ 若い人の担い手を受け入れる会社がない。
- ・ 今この町は老人だらけのように思います。若い人（夫婦）が心から住みやすい安心出来ると言える町をつくってほしいと思います。町営住宅の家賃もそれに合った支払も考えてもらいたいと心から願っております。自分の子ども達

	もここで生まれて育って暮らしているので必ず住み良い町づくりをお願いいたします。（これは本音です）
--	--

藤里町の人口減少やまちづくりに関するアンケートのお願い

町民のみなさま

町では、平成 27 年度に「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題を解決し、藤里町の特徴を生かした活力あるまちづくりや、暮らしやすく、子育てしやすいまちづくりの実現に取り組んでいます。

計画の一層の推進を実現するために、取り組みの効果や評価を把握するためにアンケート調査を実施します。趣旨をご理解いただき、同封のアンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

藤里町長 佐々木 文明

記

【調査目的】 よりよい藤里町のまちづくりを実現するための「人口ビジョン及び総合戦略」の指標に基づく効果調査を行い、計画の推進を目指す。

【対象者】 藤里町に在住する町民 500 人（無作為抽出）

【回収日・回収方法】 3 月 19 日（月）までに返信用封筒に入れてポストに投函ください。

【調査に関する問い合わせ】 藤里町 総務課 企画財政係
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字藤琴 8 番地
TEL : 0185-79-2111

以上

質問4 あなたは藤里町に愛着を感じますか？ひとつだけ選んでください。

- ①強く感じる ②まあまあ感じる ③あまり感じない ④全く感じない ⑤分からない

3. まちづくりの現状の評価について

質問5 普段のおでかけ環境について、現在の藤里町の外出のしやすさに満足していますか？
ひとつだけ選んでください。

- | | | |
|-------------|---|-----------|
| ①満足している | } | 理由: _____ |
| ②やや満足している | | |
| ③あまり満足していない | } | 理由: _____ |
| ④満足していない | | |
| ⑤どちらともいえない | → | 理由: _____ |

質問6 普段の生活の中で、人手不足を感じることはありますか？あてはまるものに○をつけてください。

- ①強く感じる ②まあまあ感じる ③あまり感じない ④全く感じない ⑤分からない

質問7 「①強く感じる、②まあまあ感じる」と回答した方にお聞きします。どの分野で人手不足を感じますか？ 特にあてはまるものを3つまで選んでください。

- ①地域（集落）の役員や行事を担ってくれる人 ②冠婚葬祭を手伝ってくれる人
③草刈りなどの地域の共同作業 ④農作業をやってくれる人
⑤子どものお守りや見守りをする人 ⑥学校の保護者役員や行事を担ってくれる人
⑦高齢者の見守りや日常生活を支援する人 ⑧災害時に対応してくれる人
⑨何か困った時に、声をかけたら手伝ってくれる人 ⑩冬期間の除雪を手伝ってくれる人
⑪その他（ _____ ）

質問8-1 人手が不足している分野に、外部からの担い手を受け入れることや、移住者の受け入れについてどう思いますか。

- ①積極的に受け入れたほうが良いと思う。
②積極的ではないが、やむを得ないと思う。
③外部からの受け入れは必要ないと思う。
④その他（ _____ ）

質問8-2 また、外部人材や移住者などを受け入れる際に必要なことはなんだと思いますか。
あなたのお考えを教えてください。

4. 情報の発信について

質問 9 普段、町のお知らせ・情報はどこから入手していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- | | | | |
|--------|-------|------------|------------|
| ①町の広報 | ②回覧板 | ③町のホームページ | ④町のフェイスブック |
| ⑤人づて | ⑥防災無線 | ⑦特に入手していない | |
| ⑧その他 (| |) | |

質問 10 地域おこし協力隊員が毎月発行している「とじこじ」を知っていますか。また、1年に1回発行の雑誌「とんじこんじ」は知っていますか。

*町のひと・もの・ことを発信し、足元にあるものの豊かさ・町の暮らしの豊かさを見つめ直しまちへの誇り・愛着を醸成しようという取組のひとつです。

- | |
|------------------|
| ①知っているし、読んだことがある |
| ②読んだことはないが知っている |
| ③知らない |
| ④その他 (|

また、「月刊とじこじ」、「雑誌とんじこんじ」について、ご意見や感想などがありましたらご記入ください。

--

質問 11 藤里町のまちづくりや若い世代の町への定着などに関する取り組みなどについて、ご意見やご感想をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。